

令和4年度第3回北名古屋市行政改革推進委員会 会議録

○ 会議概要

1 議題

- (1) 北名古屋市行財政改革実行プランについて
- (2) 公共施設の使用料適正化計画の改訂について

<事務局>

【資料1 市民説明会の開催結果についての説明】

【資料2 パブリックコメントの結果についての説明】

【資料3 北名古屋市行財政改革実行プラン（案）についての説明】

【資料4 「行財政改革実行プランの策定について」答申書（案）についての説明】

<A委員>

市民説明会のアンケート結果などを拝見すると、危機感を共有でき、情報を知ることができたために、大変大きい効果があったと思う。将来に向けて、市民の皆さんと危機感を共有することが最初の第一歩になるので、大きな一歩が踏み出せた。今回、参加できなかった方々にも、時間をかけて粘り強く説明していく必要がある。

一方で、若い世代の方の参加や意見が少ない。若い世代の方の中にも、同じような問題意識があり、選挙権など数の面でも高齢者の方が強いため、高齢者の方の意見ばかりが通っているのではないかと、若い世代の意見も反映してほしいという意見がある。

自治会単位の対話集会ももちろん大事だが、年齢制限をしたり、青年の団体や学生で区分するなど、若い世代の方が集まり、若者目線で様々な意見が聞ける対話集会があるとより良い。

<事務局>

来年度には対話集会を開始するが、属性や年代によって、抱える課題も違えば、市から伝えたい情報も変わる。そういった事情を加味し、市民の方々に合わせたアプローチの仕方を今後研究しながら進めたい。画一的に自治会や団体単位で開催するのではなく、若者や学生、働く子育て世代など、属性に応じた開催も検討したい。

<B委員>

若い世代や子育て世代は時間がなく、外にも出にくい。SNSやオンラインでの対話もどんどん進めていただきたい。

<市長>

若い世代をどう取り込んでいくのが課題。若い人達に損になる、自分達に危害が及ぶようなことをすると関心を持ってくれるのかなとも思う。私自身も、インスタなどSNSを利用しているが、これらを利用しながら対応するのも一つの手だ。

< C委員 >

市長が対話集会などの場で話をすることは非常に大事で、その目的は距離感を縮めることでもある。市役所と市民の距離感が縮められれば、行革への理解も得られやすい。ツールはSNSやインスタなどと思うが、距離感を縮める工夫は非常に大事。

もう一つは、ふと疑問に思った時に対話集会の間を埋めるような、市民が意見を言える場所を市役所の中に提供することが必要。例えば、対話集会の後に疑問が生じた場合、どこに尋ねればいいのかわからず、市役所に行っても、聞く場所すら分からずに帰ってきてしまうと、市長が様々な努力をしても、中途半端な状態で終わってしまうような気がする。

今回の行財政改革の専用ブースなどを作り、できるだけ、若手の方の意見を聞く際には若手の職員が対応して、ご年配の方には同世代の職員が対応した方が、敷居が下がると思う。ただ、交渉に近いような方々のご遠慮いただくなど、区別が非常に難しいが、開かれた市役所にしていく必要がある。

市民説明会のアンケートの中で、別添2 p.2の20番にある30代女性の「説明会参加者に高齢の方が多く、老人のためのまちになってしまわないか本当に懸念で、敷居が高いのだと思う」という意見にまさに集約されている。このハードルを下げないと対話すら進まない。中身が一番大事だが、まずはその環境整備とどう伝えるかを工夫していかないといけない。

まず、市として窓口のようなものを作らなければ、いつまでも若い方や働く世代の方、子育て世代の方は、意見を言う場もなく話だけが進むこととなり、出た結論に対して異論が出る。それではせっかく対話集会を開催しても意味がない。説得するのではなく納得してもらおう形にして、あとはどう伝えるかが問題なので、広く門戸を開くという工夫が必要と感じた。

< 会長 >

若手職員が対応するとなった場合に、市役所を背負っての回答はできないので、一旦意見を預かり、返事は確実に返すというやり方にならざるを得ないという気はする。

行政という組織だから関連課などと調整は必要であるが、行財政改革についての意見については確実に返すという体制を作っておく必要があると思う。説得より納得が必要なのかもしれない。

< D委員 >

市民説明会のアンケートの中で、専門用語がわかりにくいという意見がある。世代や対象者によっては、専門用語をもう少しわかりやすく伝えることが必要。総論賛成ではあるが、各論に関わる方々への理解がより深まると思うので、考慮していただければと思う。

全体を通して説明を受けると理解できる部分とできない部分があるので、一度に全部説明するのではなく、カテゴリ別に丁寧な説明が必要。

< 市長 >

何回も説明しないと分からないと思うし、誤った情報が噂として出回っていることも

耳にしたが、市民の方に本質の部分が伝わっていないところがあると思う。様々なところでお話をさせてもらう機会がないと、若い人達にも全く違った情報が流れてしまうこともあると思うから気をつけないといけない。

< E 委員 >

別添 1 「市民説明会において事前に募集したプランに対する市民の皆様からのご意見」の中に市の考え方が載っているが、これはどこかに公表しているのか。

< 事務局 >

今後ホームページに公表する予定。

< E 委員 >

市の考え方の中に、「第 2 次北名古屋市長官舎総合計画で掲げるめざすまちの姿である」という文言があまりにも多すぎるため、回答になっているか分からない。引用するのであれば具体的な内容がわかるような形の回答にしないと、意見を出した方に確実に答えるという姿勢が感じられない。

< 事務局 >

ホームページに掲載する際に、参照箇所のリンクを張るなどわかりやすい工夫をし、プランと総合計画（第 2 次実施計画）は併せて掲載したいと考えている。

< F 委員 >

市民が市政に参加し、直接話を聞く機会があるということは非常に良い機会だと感じており、身近に感じることはできたのではと思う。

若い方々がこういう場に参加するということ自体が大切だ。ただ、参加する上で、一番根本には若い人達が市政に対して関心を持っているかということが重要。どれだけ SNS を活用したとしても、関心がなければ多分誰も参加しないと思う。その中で、どうしたら関心を持って市政に対して臨むかと考えた時に、例えば、小学校などで地元に関心を持ってもらう教育が大切なのではと思う。特に若い世代の方々も自分ごとについては関心があるが、市だけでなく、地域のことや公のことについて勉強する・関心を持つことが大切。

若い人達を含めどんな人でも、市民サービスを受けているため、市や市政に対して関心を持つ事は大切である。教育など様々な場面で問題意識や関心を持つことが、ある意味、権利と義務の関係でもあるのでは。小学校などの小さい頃から、問題意識や地元に関心を持つ機会を多く作ることが、市民説明会や対話集会などの将来的な参加の後押しとなる。

< 会長 >

教育の世界でもいわゆる主権者教育・シティズンシップ教育の必要性が言われており、小中高の総合学習や共同学習、高校の探究の授業で地域を担う人材を育てる教育目標が掲げられ、もう既に始まっている。

この北名古屋市長官舎を大舞台としてうまく教材提供ができれば、それに越したことはない。

先ほどの様に、小中学校へのシティズンシップ教育として働きかけはとても重要。

<G委員>

市民説明会の開催結果を拝見して、60代70代の参加者ではほぼ占められると思っていたが、個人的には若い世代の参加があって嬉しく思った。

参加される方は、元々市政に関心が高いと思うが、これから続けるにあたって対話の回数を増やし、市民一人一人が市長に自分の声が届くことを実感してもらい、それが伝播することにより参画への促進に繋がると思う。

<会長>

答申書について案のとおりとしてよろしいか。

(異議なし)

みなさん承認いただけたので、答申書をこの後市長へお渡しする。

<事務局>

【2 答申】

答申書手交



<事務局>

【資料5 公共施設の使用料適正化計画の改訂についての説明】

<A委員>

これまでの規程で、個人の使用料を少しづつしか値上げできないといった定めはあるのか。

<事務局>

ジャンボプールについては、夏の2ヶ月間の運用なので、相応分の費用で計算すると、恐らく1,000円程度の使用料になってしまう。その金額では利用者が見込めないので、

純粋な経費計算では無理が生じるし、近隣の同種の施設との料金設定も踏まえると大幅な乖離はできない。

昨今の物価上昇や燃料費の高騰からも、ジャンボプールの使用料の値上げに関して、市民の理解は得られるのではないかと考えている。この計画の中で、改定時に少しずつ1.2倍を上限に値上げという案もあったが、券売機等の問題があり、この計画とは別にジャンボプールの使用料改定を検討したい。

<会長>

公共施設の使用料適正化計画は平成24年の際には、コストに見合う使用料にするが、その場合ジャンボプールは1,000円を超えるので、激変緩和措置で据え置きというという2段階でこの計画を作った。しかし、現状の物価高騰等を踏まえると値上げも検討せざるを得ないので、個人利用の施設については適用除外とし、今後別に検討するという判断をされた。

<事務局>

担当課で、今後取り扱いをどうするか検討していき、条例として議会にあげる。

<会長>

近隣の施設均衡もある。

それでは、この公共施設使用料適正化計画の修正については了承したい。

3 報告 北名古屋市第2次総合計画第2次実施計画について

<事務局>

【資料6 北名古屋市第2次総合計画第2次実施計画についての説明】

<E委員>

私は北名古屋市の男女共同参画審議会委員をしているが、各施策に関連するSDGsのマークを追加するのであれば、ジェンダー平等のマークを、まちづくりや防災基盤、子育て支援の充実などの施策にも入れていただきたい。

<事務局>

担当課と検討させていただく。

【閉会】

配布資料	<p>資料1 市民説明会の開催結果</p> <p>別添1 事前に募集したプランに対するご意見・ご質問</p> <p>別添2 アンケート自由記述欄のご意見・ご感想</p> <p>資料2 パブリックコメントの結果</p> <p>資料3 北名古屋市行財政改革実行プラン（案）</p> <p>別添 修正箇所一覧</p> <p>資料4 「行財政改革実行プランの策定について」答申書（案）</p> <p>資料5 公共施設の使用料適正化計画の改訂について</p> <p>資料6 北名古屋市第2次総合計画第2次実施計画</p>
------	---